

審議会等の会議の概要の記録

会議の名称	令和4年度 第3回甲州市未来会議
開催日時	令和4年9月12日(月) 午後7時から午後9時30分
開催場所	シェアオフィス甲州
議 題	1 短期提言について
出席委員	雨宮智信委員、雨宮康順委員、内田亜由美委員、小鳥居正恵委員、近藤巴委員、宿澤和也委員、松山典嗣委員 (五十音順)
会議の公開又は非公開の区分	非公開
会議を一部公開又は非公開とした場合の理由	委員がより自由な発言をしやすいするため
傍聴人の数	—
審議概要	別紙のとおり
事務局に係る事項	出席者 政策秘書課3名(林リーダー、三森、宮川)
その他	

令和4年度 第3回 甲州市未来会議議事録 (開催日 令和4年9月12日)

<p>内容</p> <p>1 開会あいさつ</p> <p>2 座長あいさつ</p> <p>3 議事 (1) 短期提言について</p>	<p>次第に基づき以下のとおり進められた。</p> <p>●事務局(林) 開会あいさつ</p> <p>●宿澤座長あいさつ</p> <p>●宿澤委員 短期提言書の内容について、雨宮(智)委員から説明を頂きながら、委員の皆様の見解をお伺いしていきたい。</p> <p>●雨宮(智)委員 6ページの長期提言の冒頭部分の文言について、17ページの短期提言8の表題の「未来に向けて、全市民が協働するまちづくり」の一言でまとめるのはどうか。皆でまちづくりをするという目的をシンプルに表現した後で、それを実現するための具体的な提言がきて、最後にそれをするための方法がまとめられているという形にするのはどうか。提言8の部分は、市役所のあり方や協働性のあり方等一番方法論に近いので、最初に持ってきてもいい。一方で、一番重要なところだからこそ最後に持ってきた方がいいのか。皆さんに諮りたい。</p> <p>●近藤委員 そうすると、長期提言冒頭の「甲州市の現状把握(強み・弱み)を理解したうえで・・・」という文言自体なくすということになるのか。</p> <p>●雨宮(智)委員 伝えたかったことは、全市民が協働するというところで、市民みんなが意識を持って、どういう役割を果たすのかが大事である。一人一人が個性を持って役割や責任を果たすという意味合いが、「三万色が織りなす甲州市」であるので、挿入箇所は最初か最後がいいと考えている。また、提言8については緊急で挿入したこともあり、内容の校正は自分なりしたが、みなさんのご意見もお伺いしたい。</p> <p>●近藤委員 「甲州市の現状把握(強み・弱み)を理解したうえで・・・」という部分は非常に大事なことだと思っているので、提言書のどこかに残してほしいと感じた。</p> <p>●内田委員 私も同感である。この言葉があることで理解しやすく、前置きとして必要であると思う。</p> <p>●小鳥居委員 私も同感で、ここでの導入があるからこそ提言8が生きてくると感じる。現状のままでいいのではないか。</p>
--	--

●松山委員 現状把握ができていないのが現状なので、現状把握は大きなポイントであると思う。

●近藤委員 タイトルが気になるということであれば、「全市民が協働するまちづくりを目指す」をタイトルとして、その後に「甲州市の現状把握（強み・弱み）を理解したうえで・・・」を入れる流れにするのはどうか。

（一同賛成）

●宿澤座長 それでは、長期提言についてはそのように修正をお願いします。続いて、短期提言1から順に項目ごと進めていくが、事前に内容は確認頂いているので、何かご意見があれば出していただきたい。それでは、短期提言1「新規就農者の包括的支援」について意見をお願いします。

●小鳥居委員 具体的提言1-①の文中の「②年齢層：若年層から60代まで幅広く」という部分について、農業に従事している人は、70、80代のイメージが強いため、60代ではなく高齢者層とする方がいいのではないかと感じる。

●雨宮（智）委員 新規就農者ということで60代としたが、それ以降でも始めたい方はいるので、高齢者層と修正をする。

●小鳥居委員 農業を始めるきっかけは様々で、仕事を退職して雇用保険で農林大学校へ通っている人もいます。学生だけでなく、大人も通える学校が必要だと感じる。

●雨宮（智）委員 具体的提言1-②で、年齢制限なく全国から集まってくるイメージで書いたが、やはり学生の頃から流出させないことがポイントであるので、学生が来ること、それより上の方は外部からのイメージである。今回は、細かいことではなく、塩山高校の場所に人が集まって、農業学校を作ったら面白いというような大きな捉え方でいいのではないかと感じる。この提言書は市長へ向けてのものなので、さらに具体的に踏み込んでほしいとの要望があれば、残りの半年でアイデア募集等をする中でカスタマイズしても良いと思う。基本的な目標としては、地域活性化と、ぶどうやワイン産業の中心に甲州市があり続けることであるので、このような書き方で良いと感じる。

●宿澤座長 私も同感で、今ある塩山高校に農業学校や学部を設立して、共存した総合的な学校も可能になるという大まかな書き方になっており、今後広がりやすいと思う。

●雨宮（智）委員 そこに学部を設立すると、通う人もいれば、寮やアパートも必要になる。産業短期大学には、会社を誘致する方が利便性はいいはずであり、活性化に繋がる。人が増えれば、コンビニ等もできてくる。既存のものを利用していくことはマストであることは事実だが、あまり修正事業ばかりだと後手に回っている印象が出てしまう。目立つ新規事業も入れながら様々な選択肢を出していくことが良いと思う。その中でもこの提言は、一番夢があるものだと感じている。

●宿澤座長 私が考える極論は、市の権限で運営ができるように甲州市立塩山高等学校とすることである。そうすることで、新たな学部を設置して、学生から大人まで学べる場所ができるのではないかと思う。

●雨宮（智）委員 地域の再開発のイメージである。それをしないと、北部が衰退していってしまう。南側は、期せずしてできたまちづくりだが、北側は市主導で維持していき、文化的な部分の中心にしていけばいいと思う。某有名コーヒーチェーン店も夢ではないかもしれない。人が集まるものを作って、組み合わせることがまちづくりであるから誘致も含めてやっていけたらいいと思う。

以前、移住者の方が地域の名物がほうとうしかないことが非常に残念だと話していた。ぶどうやもも等を活用した商品を地域の人たちで開発して、新しい名物で活性化していく。通販だけでなく、あえて店舗型でやることで人も集まり雇用も生まれ、いい循環になっていく。そういう起業を応援するようなシステムがあれば、挑戦しやすい。地域の魅力をアップさせるような名物で人が集まってくる場所が出来るといいと感じる。

●宿澤座長 続いて短期提言2「シェアオフィス甲州の積極的活用」で質問ご意見はいかがか。

●松山委員 利用方法の部分で、「安心して利用できるために、管理人を配置する」とあるが、それと同時に利用者同士を繋ぐ役割も兼ね備えた管理人だとさらに良い訴えかけができるのではないか。

●事務局（林） 松山委員が言われたとおり、管理人というと単に鍵を開けて閉めるだけの印象があるので、別の言い方に変えるのも良いと感じた。

●小鳥居委員 「おせっかいさん」はどうか。勝沼観光案内所にいるような、地元のことをよく知っている方が居ると安心すると思う。女性の方が合うイメ

ージである。

●雨宮（智）委員 単なる管理人ではないことが伝わる一言があればいいのだが。つなぐ役割がメインであることを表したい。

●事務局（三森） この提言書内にも何度も出てきているが、「コンシェルジュ」とかになるのかと思う。

●内田委員 イメージは、コンシェルジュ、コーディネーターなどかなと思う。

●雨宮（智）委員 利用者の中には一人で集中して仕事をしたい人もいるので、「おせっかいさん」はマッチしないかもしれない。「コーディネーター」は少し堅い印象がある。

●事務局（林） 他の同様の施設はどのような言い方が一般的か。

●事務局（宮川） 他のシェアオフィスも、繋ぎ役の人を「管理人」という言い方をしているところが多い。

●雨宮（智）委員 言い方は「管理人」のままとし、注意文で「人と人を繋ぎ、出会いの場を創出する人」とするのはどうか。

●宿澤座長 「管理人のあり方を模索する」等、市の方であり方を考えてもらうような含みを持たせた書き方もいいと思う。そういう管理人がいれば、安心安全は後からついてくるものである。

●雨宮（智）委員 承知した。そのように修正していく。

●近藤委員 「甲州市商工会との経済関係団体との連携も必要になってくる」という部分は、初めて出てきた内容に感じており、なぜ連携が必要なのかが書いていないので分かりづらいと感じる。

●雨宮（智）委員 要は、この施設のことがあまり知られておらず、利用を促すような働きかけも弱かったことから、地域の事業者の多くが登録している甲州市商工会と連携し発信を強めていこうという話だったと記憶している。

●近藤委員 上から3行目の「甲州市内に居ながらにして東京圏内企業で・・・」のところで、東京圏内を首都圏内に変更するべきだ。神奈川県や埼玉県等も考

えられる。

●小鳥居委員 首都圏は山梨県も入るので、関東圏がいいと思う。

●宿澤座長 シェアオフィス甲州については、改善しやすい、提言しやすいという観点から提言に入れた経緯がある。具体的提言 2-①にある、申請の電子化やキャッシュレス化に対応するために必要な費用をあらかじめ調べておいてもらい、市長から聞かれたときにスピーディーに対応できるよう願います。シェアオフィス甲州は魅力的な施設なので、利便性等ちょっとしたことで活性化できると感じている。

●近藤委員 施設のお試し利用ができると、魅力を感じてもらいやすいと感じる。例えば、お試し利用 DAY を半年に 1 回程設けて広く開放する等もどうか。提言に追加してもらえるか。

●雨宮（智）委員 承知した。追記する。

●宿澤座長 電子申請やキャッシュレスは予算が必要だが、管理人のあり方は、退職後の方やボランティアなどを活用し、必ずしも予算をかけなければならないということではない。市の方で上手くあり方を考えてもらえるような含みのある提言であると捉えてもらいたい。

●雨宮（智）委員 この提言に関しては、実現された後も皆で意見を出し合い、継続利用をしていかなければ萎んでしまう。維持や広めていく活動を J C の方等に協力を得ながら続けていくことが必要だと感じるので、未来会議等で算段はつけておく必要があると思う。

●宿澤座長 それでは、続いて短期提言 3「移住・定住対策のさらなる推進」について意見があれば願います。

●雨宮（智）委員 具体的提言 3-①と具体的提言 3-②は、一つの流れとしてまとめられるので「市内不動産の流動化と宅地の確保」とするのはどうか。柱が多いよりは、まとめられるものはまとめる方が良いと感じる。

具体的提言 3-③「情報発信の強化」は、三行で終わってしまっているので、実例をいくつか挙げて肉付けするのもいいのではないかと。

●小鳥居委員 行政で SNS を発信していくのは負担が大きいですので、例えば高校生に SNS を更新し、発信してもらうのも面白いと思う。その方が効率的に

発信できてフォロワーも増えていくのではないか。

●雨宮（智）委員 SNS 発信は権限がある仕事なので、民間に簡単に渡してやってもらうのは難しい印象である。市の許可の上で高校生が公式アカウントを立ち上げる事例はある。例えば、観光、メディア関係を専攻している地元の大学生に、若い人が見てくれるためにはどうしたらいいか意見をもらい、編集に携わってもらうのもいい。それを通じて、学生同士を甲州市という枠で横につなぐメリットも出てきて面白いと思う。

●近藤委員 フルーツ娘に発信してもらうのも面白いのではないか。

●事務局（宮川） 甲州らいふのインスタグラムの立ち位置が、観光とは別の目線で捉えており、移住希望者目線の情報を提供していくには、ある程度地元根付いて生活している人の方が適任だと考えている。

●雨宮（智）委員 情報の発信元が拡散してしまうことが問題で、情報の窓口を一本化して、そこから派生させる方が得策である。例えば、甲州市という一つの門の中に観光、移住、生活、仕事等必要な情報に飛んでいけるイメージである。どんな情報が必要なのかの分析は外部機関に依頼すると固定費が増えるので、学生やボランティア、甲州市に興味を持ってきている人を引き込んで意見をもらうとよい。とにかく学生を引き込んで、一般の人にも興味を持ってもらえるような企画も含めてお願いをする。また、甲州市の魅力が十分に伝わっていないという現状についても、専門家に分析してもらった上で勢いのある学生や若い世代の社会人に実働部隊として動いてもらうのもいいと思う。ただ、今回はまだまとまらないので追記はできないが、この情報発信の部分は非常に重要だと考えている。

●小鳥居委員 市で SNS を更新するにはいろいろと規制もあって躊躇してしまうことが多いので、学生ボランティアやフルーツ娘などに若い目線で上げてもらうのはいいと感じる。また、インスタグラムで市の発信をリポストして拡散してもらうのも有効である。

●雨宮（智）委員 今、YouTube 需要が高いので、観光大使等に YouTube チャンネルを開設してもらうのも面白い。

●事務局（林） 今後の観光大使は、そういった方向の方にしていただければ発信力が強まるかもしれない。

- 小島居委員 観光大使にタグ付けしてもらったり、積極的に SNS で発信してもらおうようにしたらどうか。
- 宿澤座長 発信の上手な移住者の方に発信してもらうのも有効である。
- 雨宮（智）委員 移住してきた方の感覚で定着も含めてリアルなところを発信してもらうのも興味を引くと思う。ある程度自由に活動してもらえるような補助金メニューがあってもいい。市で全て行うのは負担がかかるので、上手く外部を取り込んでいくことも必要である。
- 事務局（宮川） 公式であるがゆえに、インパクトのある大胆な投稿やリスト等を躊躇してしまうところがある。SNS を上手く活用できていないかもしれない。
- 宿澤座長 事務局の問題というよりは、甲州市自体にインパクトのある政策や謳い文句があるかどうかの問題である。それがあればもっと投稿ができると思う。
- 雨宮（智）委員 民間のいろいろなジャンルの人たちを観光大使として市が任命して、情報交換しながら活動してもらう方が効果は高いかもしれない。
- 宿澤座長 民間人観光大使の登用は、提言にいれても面白いと思う。
- 内田委員 山梨県の観光大使は、民間人が登用されていたと思う。観光大使に一般人を登用することは賛成である。
- 雨宮（智）委員 地元の人々の魅力を再発見して繋いでいくという意味で、民間人の観光大使は良いと感じる。それでは、情報発信の新規の案件として、「民間人の観光大使の登用」と「YouTube チャンネルの開設」を追記したいと思う。
- 雨宮（智）委員 具体的提言 3-④の「移住コンシェルジュチームの設置」については、一般の人たちのコンシェルジュチームとは別に、市役所の内部にも移住者増を目指す権限を持ったチームが必要だという方向性的内容である。
- 宿澤座長 移住相談者の様々な案件に対して、スピード感をもって支援が出来るように、若い行動力のある職員で課を越えたチームを結成し横の繋がりを強化するイメージである。

●雨宮（智）委員 課の横断ということがポイントになる。一番は人口を維持するために、再編し、人口対策にさらに力を入れていくということで、今までの役割を整理して、できなかった部分をしっかりと体系化することが必要である。

●宿澤座長 今年度、ふるさと納税の担当が人数も増えて強化されているように、いずれは移住定住担当の方も同じようにチームを強化していくべきだと思う。ただ、すぐに担当者を増やすのが難しければ、まずは課を横断したチームから始め、結果を残しながら段階的に強化していくなど、いろいろな捉え方で問題はない。

●雨宮（智）委員 例えば、若いやる気のある職員を公募で集めるというのも、ある意味新しい働き方として面白いと思う。そういうやる気がある能力がある人を任命して特命チームとして活躍させていくことも意識の改革につながると感じる。提言には、市長から人口減対策として特命を受けたチームを編成する。例えば、やる気のある職員を公募して増やすという内容も盛り込みたいと思う。

●宿澤座長 それでは、続いて短期提言4「観光交流の充実による交流人口、関係人口の増加」について、何かご意見はあるか。

●小鳥居委員 甲州市内で宿泊してくれる人を増やしていきたい。宿泊は他市へ行ってしまうケースが多いと聞くことがある。

●内田委員 観光は日帰りの需要が高い印象である。

●雨宮（智）委員 泊るところがないという先入観があるようにも思える。宿泊のケースは様々で、出張で来た人やシングルでの需要も高いので、多様なニーズを把握し、今あるものも上手く活用してカバーしていく必要がある。新設することばかりだとお金も時間もかかってしまう。

●近藤委員 ぶどうの丘の稼働率はどのぐらいか。

●事務局（林） 繁忙期と閑散期の差が激しい。

●雨宮（智）委員 稼働していない時の稼働率をどう上げるかが大事で、ニーズを把握する中で、例えば素泊まり利用できる民宿や平日割引をかけて呼び込

むなど考えていく。

●雨宮（康）委員 冬のイベントに力をいれていくことも効果的だと思う。

●小鳥居委員 B&B や民泊の需要も一定数あるので、サイトに掲載することで紹介していくのもいいかもしれない。

●雨宮（智）委員 甲州市の魅力発信の中で、宿泊施設一覧と B&B の登録してあるところが多い等紹介をしていく。

●近藤委員 甲州らいふのサイトに民泊の紹介ページがあったと記憶している。

●内田委員 民泊施設は、自分でかなり探さないと見つけられないイメージがある。

●雨宮（智）委員 90 分で来ることができるのに、泊まる魅力は何なのかを PR していく必要もある。宿泊場所を石和にしてしまう人は、そんなに深い理由はないと考えていて、温泉ぐらいが理由ではないか。

●小鳥居委員 いい温泉は塩山にも勝沼にもあると思う。

●雨宮（智）委員 塩山駅の北側の施設が今後施設のあり方について、どのような予定でいるのかを整理することは必要であると感じる。

●内田委員 実際、とてもいい温泉が市内にあるが、もしもこの家の宿泊者に勧めても行く方は少ない。

●近藤委員 一見、日帰り温泉をやっているのか等の情報が全く出ていないから利用しづらいというのも原因の一つであると思う。

●雨宮（康）委員 立地条件もあると思っている。景色が良くて、周囲にワイナリーがあれば、そういうところに惹かれることもある。

●雨宮（智）委員 ワイナリーや観光農園もニーズや現状把握等をそれぞれでやっているが、今のままでは共倒れになってしまう。そこを支える食事処や宿泊等が充実しないとお客さんは、ただぶどうだけを買って帰ってしまう。

●宿澤座長 比較的金曜日や土曜日は宿泊者がいる印象だが、平日頃宿泊者が来るような場所でないことは確かであるので、何らかの仕掛けが必要である。

●小鳥居委員 先日のイベントで、高校生からの提案の中に、甲州市にキャンプ場を作るといったものがあったが、どうか。

●雨宮（智）委員 キャンプ場を整備してオープンするには、なかなかハードルが高い印象があるが、もしやるならば、他にはない付加価値をつけて独自性を打ち出さないと集客は出来ない。そこに泊る価値を作るためには、自然の産業や再開発等しておく必要がある。

●宿澤座長 この部分は、いろいろ含みを持たせて書いてあるので、この内容でいくのがいいかもしれない。

（一同異議なし）

それでは、続いて短期提言5「安心して子育てが行える環境づくりの推進」についてご意見あるか。

●近藤委員 出産祝い金について、「出産後に移住してきた市民への配慮」と記載してもらったが、出産時だけでなく、入園や就学などお金のかかるタイミングで祝い金を分散して出すことで、長く恩恵を受けられて定住に繋がるのではないか。

●雨宮（智）委員 確かに出産祝い金で一括支給するより、段階的に支給した方が多くの方に恩恵を受けてもらいやすい。例えば、就学時は「ランドセル〇〇祝い金」といったような少し変わったネーミングにすると面白いと思う。

●近藤委員 ランドセルの話でいうと、子どもたちが重いランドセルを背負って挨拶をするのは非常に大変であるので、挨拶運動の推進と合わせて軽いランドセルを持つことを推奨するのも面白い政策であると感じる。

●雨宮（智）委員 提言としては、出産祝い金だけでなく、進学祝い金等でも継続的に支援をしていくという書き方に変更する。

●近藤委員 今回書いてもらった、妊婦タクシーと陣痛タクシーは、核家族が増える中で、需要は高まってきていると思う。また、外から人を呼び込むためにも非常に重要だと感じている。2人目以降のことを考えて、兄弟も一緒に乗車できる仕組みもあるとなお良いと思う。

●小鳥居委員 年に数件ほどの利用かもしれないが、制度があるかないかは大きな違いで、甲州市を魅力に感じてくれる人は多いのではないかと感じる。

●近藤委員 甲州市内には産院がなく、近くても山梨市、高齢出産であれば甲府市まで行かなければならないので、デマンドバス等も上手く組み合わせる中でこの制度はぜひやってもらいたい。

●小鳥居委員 不妊治療への助成金については既に制度化されている。ただ、多くの市町村でやっている内容と変わらないので特段手厚いというわけではない。今の制度では、山梨県が決めた県内の病院でしか治療を受けることができない。全国の病院で受診が可能となれば、山梨県内に住みながら医療格差を感じずに子どもをつくることのできるのではないかと感じる。

●雨宮（智）委員 良い案であると思う。それでは、全国どこの病院でも対象の不妊治療助成金で医療格差の是正という内容で修正する。

最終行のお弁当の配達については、非常に助かる制度だと考えている。

●近藤委員 同感である。産後、運転して買い物に行くことが難しい時期もあったので、こんな制度があったら需要は高いと思う。

●雨宮（智）委員 地元のお弁当会社等に委託して、地元でお金を回していくのもありだと思う。配達回収の際に他のサービスを提供することも可能で、ビジネスとしても成り立つ可能性もある。どうせならそこに付加価値を付けて美味しいものや自然で体にいいものを提供する。子育て支援センターに配達するのも良さそうである。

●近藤委員 都内では、子どもの遊び場に併設されているレストランも多くあり、利用者も多い印象である。

●雨宮（智）委員 調理室を作る必要はなく、しっかり作れるところから配達には外部委託でも十分だと思う。妊婦さんや育児中の人たちにいいものをちゃんと食べてほしいという気持ちが伝わる提言だと思っている。安心安全という言葉を追記して、上段の方へ移したいと思う。

●宿澤座長 それでは、続いて短期提言6「郷土愛を育む甲州教育の充実」についてご意見あるか。先ほどのランドセルの話もここに入ってくる内容だと思う。

●雨宮（智）委員 農業体験の授業や学校、地域のこと等、合理性だけ追及して、学ぶ部分だけをスポット的に体験させることが多いが、生活に根差したこと、自分の住んでいる地域のことを自分の事として知って、大事にするという感覚を持ってもらわなければ意味がない。日常に組み込まれた部分の循環を地域で作っていくことは、田舎だからこそ大事だと感じている。ただ、ここは教育委員会との兼ね合いもあり、具体的な施策は難しい部分だが、しっかりした提言を作らないと一つも実現できないと思う。コミュニティースクールについては、学校の方でかなり難色を示していたので、子どもの居場所づくりは市民が動くことで実現可能だと感じる。子どもたちが放課後や土日に気軽に行けるような場所があるといい。児童館や小学校の空き教室、図書館等のアイデア次第で作れるのではないか。例えば、市役所の1階を開放して、ボランティアの管理人を置き、子どもが遊んだり勉強したり集える場所があれば市の象徴的な部分になる。

●近藤委員 教育学部等の学生のボランティアの活用もいいと思う。

●雨宮（智）委員 基本的にボランティア中心で運営し、市役所の職員が変形労働等で管理していく。

●宿澤座長 この内容は提言に入れていきたいと考えるがいかがか。

●雨宮（智）委員 では、市役所の空きスペースを活用し子どものための場所づくりをするといった内容を追記する。

●宿澤座長 それでは、続いて短期提言7「地域コミュニティの再構築」についてご意見等あるか。

●松山委員 具体的提言7-①が比較的ふわっとしている印象がある。ハード系のことについて多く言及されているが、まずは自分の気持ちを確かめるような仕掛けが必要である。スペースを設置する前に甲州市に対話する文化を作っていくことが先決ではないか。

●雨宮（智）委員 国も地域の協働については、非常に重要だと捉えており、補助金を出すポイントでもやはり居場所づくりから始めていた。空き家を解消して誰もが立ち寄れる場所づくりや、駄菓子屋を作った例もあった。そういういつも誰かがいて集って話せる場所づくりは、国も中心に掲げていた。そもそもそういう場所がないと文化も生まれづらいかもしれない。

●松山委員 「場所」と「場」は分けて考える必要がある。甲州市の中に対話できる組織文化を作っていく。甲州市の中に人を育てる人を育成するようなイメージである。

●内田委員 私は、短期提言 7-①は具体的だと感じている。毎週水曜日に塩山の商店街の「よってけし」というスペースで行われている水曜市で、人が集う地域コミュニティが構築されている。いろいろな方がお弁当やお惣菜、洋服、雑貨等を買っていて、近所のお年寄りを中心に外から来た人や、そこでお店を出している人などでコミュニティができています。そもそもここは、車がない一人暮らしのお年寄りのために、近場で生活用品が買えるようにと始めたスペースであった。今は水曜市以外にもランチの提供も始まり、広がりをみせている。必要なのは、まさにこういう場所のことであると感じた。

●小鳥居委員 コロボックルでもそういうコミュニティができています。近所の人たちがワイン飲みに来て話して、集う。小さいコミュニティで繋がって、段々広がっていくイメージ。

●雨宮（智）委員 自分たちで地域事情を考え、できる範囲で活動していく。まさにそういう場所だと思う。その仕組みがどうして上手くいったのか、話を聴いてみたい。

●松山委員 上手くいっていないところが多い中、成功例や失敗例などいろいろ背景はあると思うので話を聴いて参考にしたい。

●雨宮（智）委員 地域のリズムをよく分かっている、成功体験が多い方にアドバイザーになってもらうのも有効である。地域に必要なものや足りないものを助言してもらい、運営するのは地元の有志で自分たちの力でやっていく。いろいろと具体的なアイデアが出てくると思うが、細かい部分は市長提言の後でまとめていく形でもいいと考えている。

●宿澤座長 では、最後短期提言 8「未来に向けて、全市民が協働するまちづくり」に進んでいく。何かご意見あるか。

●雨宮（智）委員 この内容は、今までの会議の中でも多々出てきたことであり、市役所を楽しい場所にしていきたいという想いで載せた。

●松山委員 「手段が目標とならない」という言葉はすごくいい。大事なことである。

●雨宮（智）委員 市民が自分の事と捉えて、自分たちで行動して実現させていくことが大事である。市役所でやれることも限度があり、どこまで市民と一緒にやれるかも重要になってくる。提言が何か一つでも実現して、変わってほしいなと本気で思っている。これまで、シェアオフィス甲州を象徴的な改革の場所にできたらと考えていたが、既にある小さな地域のコミュニティを参考にして、地域の特性にあったものを立ち上げていくのも面白いと感じた。若い人たちがやれたらいい。緊急的にこの提言を入れたが、市役所の方からも何かあればご意見をいただきたい。

●事務局（宮川） 20 年後に向けて常に職員もアップデートしていかなければならない。長く勤めていると疎かになってしまうこともあるので、意識してやっていきたい。

●雨宮（智）委員 この提言 8 は、今の市役所の現状では難易度が高いかもしれないが、何か一つでも取り組んでもらえればと思っている。

●事務局（林） この短期提言書の後に長期提言書を出す予定だが、イメージ的には長期提言の内容の方がよりボリュームがあるという認識でいるがいかがか。

●雨宮（智）委員 今回の短期提言書は、長期提言の中に短期提言を入れている形であるため、この短期提言が内容のボリュームとしては一番あると考えている。

●事務局（林） 短期提言書と長期提言書を両方見る方が多いと思うので、両方が上手くリンクするような形で出来ると良いと感じる。短期提言を予定どおり 9 月中旬に市長へ提出するということが問題ないか。

●宿澤座長 予定どおり 9 月中旬に提出をしたいと考えている。

●事務局（林） それでは、市長の日程を確認し決定したいと思う。代表の方で渡していただくイメージでいる。短期提言書が出来上がった時点で、市長に事前に確認してもらい、内容をある程度把握してもらった状態で詳しい説明を添えて提出してもらえればと考えている。

●宿澤座長 承知した。出席できる方で集まって、提出したいと思う。

それでは、本日出た意見内容を雨宮（智）委員と雨宮（康）委員の方で提言

<p>(2) 高校生・大学生 ワークショップ報告</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会あいさつ</p>	<p>書へ落とし込んでもらえればと思う。</p> <p>●雨宮（智）委員 9月22日（金）までに雨宮（康）委員に修正したものを提出させてもらう。</p> <p>●雨宮（康）委員 承知した。完成次第共有させていただく。</p> <p>●宿澤座長 最終ページの「最後に」の部分も何かご意見あればお願いしたい。 （一同意見なし） 高校生・大学生ワークショップの報告についてはいかがだったか。</p> <p>●事務局（林） 7月28日に高校生ワークショップを開催。高校生6名と雨宮智信委員が参加。発言要旨説明。 8月19日に大学生ワークショップを開催。大学生7名と雨宮智信委員、小鳥居正恵委員が参加。発言要旨説明。</p> <p>●事務局（林） 連絡事項等なし</p> <p>●事務局（林） 閉会あいさつ</p>
---	--